



やりたいことが、次から次へと。  
いつもいまがいちばん楽しい。

「あなたは人にものを頼まれると、自分のことを差し置いても全力でやってしまう」と、よく姉から言われた。ひまわりのような笑顔の林 芙美さんは、昨春から湯梨浜町女性消防班の班長だ。

これまで、子どもの学校の役員、社会福祉協議会の仕事、泊クラブ事務局、地域活性化推進委員から友だちの店の手伝いまで。仕事のほかにも、いつでも1人で二役や三役をこなしてきた。

「泊で生まれて泊で育ち、3人の子供を泊で育てました」

ふるさとが大好きで、この町の人が大好き。今の役割も、義兄から「誰かいらない？」と言われて引き受けた。

ホースを持って消火するわけではなく、消防の広報活動が主な仕事。イベントではパレードの先頭に立ったり災害訓練のお手伝いもする。

「やりたいと思っただけでやっているせいか、ちつともえらく(大変)にならないんです」

防災のこともっと勉強したい。湯梨浜のことも園を訪問するなど、女性消防ならではの活動を広げたい。次々にアイデアが浮かんで、頭の中がぐるぐるする。肩に力が入ってくる。そんな時には、「芙美ちゃんだけでやるわけじゃないけ。そんなにガチガチにならないでえーけ」と、3人の仲間が声をかけてくれる。

そうだ、まずはよく「何やとっただいや？」と訊かれる私たち女性消防のことをしっかりアピールしなくてはと、さらに張り切る。

湯梨浜町消防団女性消防班

林 芙美

ゆ  
う  
ゆ  
う、

ゆ  
り

は  
ま

